

目から鱗が・・・

新潟県 新潟県生涯学習協会会員
梅津 玲子（うめづ れいこ） 64歳

「すべての子どもたちがどんな差別にも屈することなく、互いを敬い合い、自他の尊重が当たり前の世の中になってほしい」と願い、私にできることを、できる所で、肩肘張らずに頑張ってきたように思います。

学校を定年退職して4年目。振り返ると、私のターニングポイントは平成7年の「国立女性教育会館」であったと……。もし、国立女性教育会館に何度も足を運び、男女共同参画社会の実現に向けての学習をしてこなかったら、今の私はないのです。

明治生まれの両親に育てられ、恥ずかしながら成長するにつれ、女性は男性に従い、男性を支えて生きていくのが幸せな生き方であると思い込んでいた私。ベテラン女性教員がいるにもかかわらず、若い男性教員が学年主任や教務主任などになっていくことに疑問も持たずにきていました。また、固定的な性別役割分担は当たり前のことであり、結婚してからは、仕事と両立させなければならぬと必死でした。夫は協力的でしたが……。

そんな私でしたから、会館で学んだ内容は「目から鱗」。出会う方々はみな輝いており、憧れでした。そして、自分がいかに小さいか思い知らされ、ジェンダーの再生産を知らずにしていた自分を反省しました。たくさんの「気づき」を与えてくださった国立女性教育会館に感謝です。これからも、ずっとずっとみんなの「心の拠り所」となっていてください。